

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県業務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和6年第19週の発生動向

□ 全数報告の感染症（19 週までに新たに届出のあったもの）

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 2 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3 例。
4 類感染症：A型肝炎 1 例。
5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 2 例、梅毒 3 例、百日咳 2 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	50歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			90歳代	男	無症状病原体保有者	なし
3類	腸管出血性大腸菌 感染症	都城	0～4歳	男	—	水様性下痢、嘔吐、発熱、O26(VT1)
			0～4歳	女	—	水様性下痢、O26(VT1)
			30歳代	女	—	水様性下痢、頭痛、O26(VT1)
4類	A型肝炎	都城市	40歳代	男	—	全身倦怠感、発熱、食欲不振、肝機能異常
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	延岡	60歳代	女	—	発熱、肺炎、菌血症
		日南	80歳代	男	—	発熱、咳、全身倦怠感、意識障害、肺炎、 菌血症
	梅毒	宮崎市	10歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			30歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳
		都城	20歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹
	百日咳	延岡	10歳代	女	—	持続する咳
		日南	5～9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・ 定点医療機関からの報告総数は 636 人(定点当たり 16.5)で、前週比 129%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

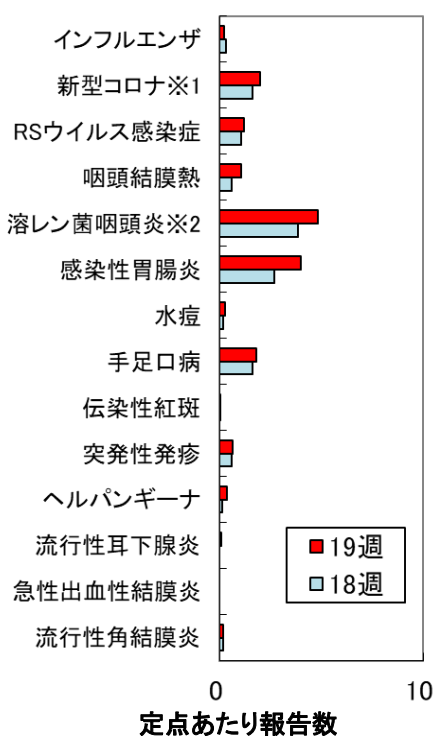
報告数は 115 人(2.0)で、前週比 124%と増加した。中央(4.0)、延岡(3.9)、日向(2.7)保健所からの報告が多く、年齢群別は 15 歳未満が約 3 割だった。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は 173 人(4.8)で、前週比 124%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.1)の約 4.4 倍であった。日南(6.0)、高千穂(6.0)、宮崎市(5.4)保健所からの報告が多く、年齢群別は 4 歳から 7 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

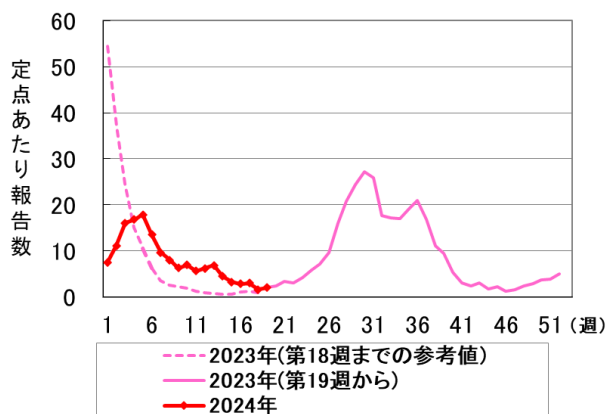
《前週との比較》



※1 新型コロナウイルス感染症

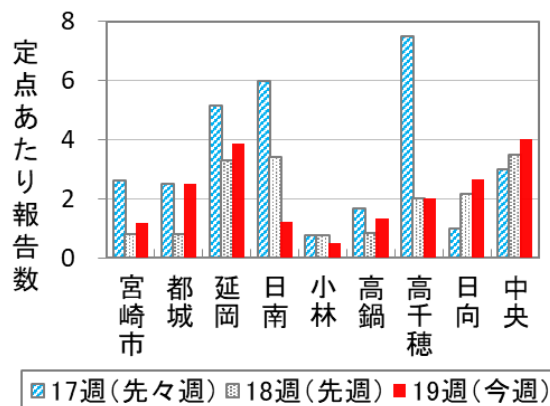
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

新型コロナウイルス感染症 発生状況

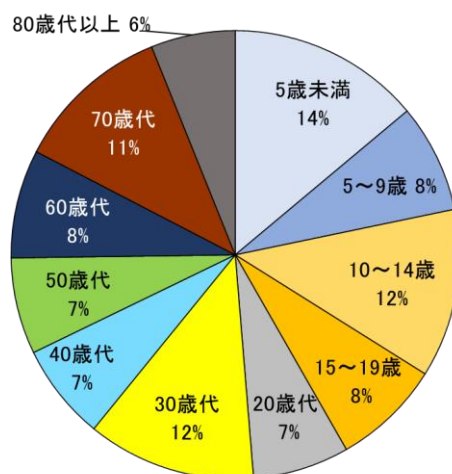


※新型コロナウイルス感染症の第1週～第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

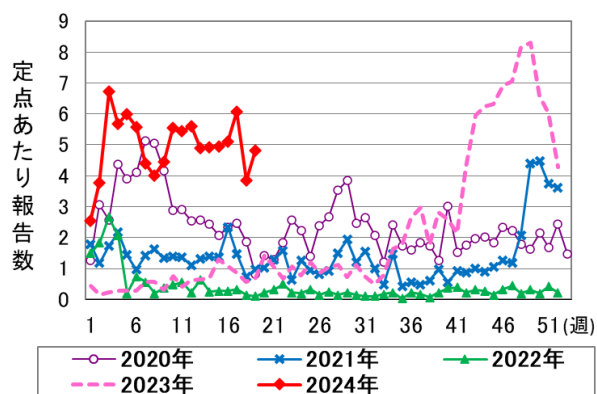
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



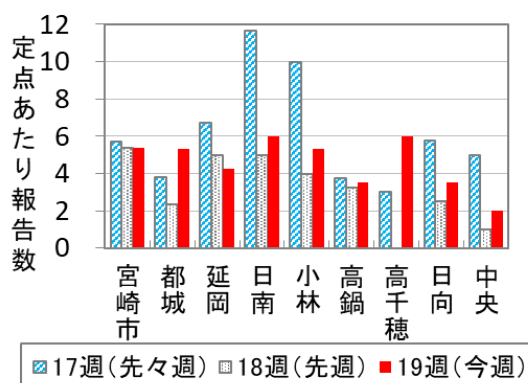
新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第19週)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患 なし

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和6年5月13日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EHEC(O26:H11 VT1)	5～9歳	男	2024.05.04	なし	便	2024.05.11
EHEC(O26:H11 VT1)	0～4歳	男	2024.05.04	水様性下痢、発熱	便	2024.05.11
EHEC(O26:H11 VT1)	0～4歳	女	2024.05.04	腹痛、血便、発熱	便	2024.05.11
EHEC(O26:H11 VT1)	0～4歳	女	2024.05.04	腹痛、発熱	便	2024.05.11

○保育施設において腸管出血性大腸菌 O26（VT1）の集団感染が発生した。腸管出血性大腸菌は経口感染し、少ない菌量でも家族や保育園等の集団で感染が広がることがあるため、食材の加熱、調理器具の消毒、手洗い等を徹底する必要がある。

厚生労働省による「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年3月改訂（2023年5月一部改訂））では、おむつ交換について、①糞便処理の手順を職員間で徹底する。②おむつ交換は、手洗い場があり食事をする場所等と交差しない一定の場所で実施する。③おむつの排便処理の際には、使い捨て手袋を着用する。④下痢便時には、周囲への汚染を避けるため、使い捨てのおむつ交換シート等を敷いて、おむつ交換をする。⑤おむつ交換後、特に便処理後は、石けんを用いて流水でしっかりと手洗いを行う。⑥交換後のおむつは、ビニール袋に密閉した後に蓋つき容器等に保管する。⑦交換後のおむつの保管場所について消毒を行う。などのことが推奨されている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Influenza virus A H3	20歳代	男	2024.03.07	インフルエンザA型、38.8℃、関節痛、鼻水	鼻咽頭ぬぐい液	2024.05.09
Influenza virus B(Victoria lineage)	10歳代	男	2024.04.01	インフルエンザB型、39.0℃、咽頭痛、気管支炎	鼻汁	2024.04.30
Influenza virus B(Victoria lineage)	0～4歳	女	2024.04.01	インフルエンザB型、40.2℃、気管支炎	鼻咽頭ぬぐい液	2024.04.30
Influenza virus B(Victoria lineage)	0～4歳	男	2024.04.08	インフルエンザB型、39.7℃、咽頭痛、中耳炎	鼻汁	2024.04.30

🇯🇵 全国 2024 年第 18 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	171 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	29 例	腸チフス	1 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	13 例	A型肝炎	4 例	エムポックス	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	6 例	つつが虫病	1 例	デング熱	3 例
	日本紅斑熱	17 例	レジオネラ症	18 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	1 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	22 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18 例
	後天性免疫不全症候群	5 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	9 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	43 例	水痘（入院例）	4 例	梅毒	101 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例
	百日咳	14 例				

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 63%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎であった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 11,086 人(2.3)で前週比 70%と減少した。沖縄県(9.8)、青森県(5.7)、秋田県(4.9)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 2 割を占めた。

手足口病の報告数は 1,890 人(0.61)で前週比 105%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.16)の約 3.8 倍であった。大分県(5.5)、愛媛県(4.0)、福井県(3.8)からの報告が多く、年齢群別では 6 ヶ月～3 歳が全体の約 8 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均

月報告対象疾患の発生動向 <2024 年 4 月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は37人(2.9)で、前月比154%と増加した。また、昨年4月(3.2)の約0.9倍であった。

《疾患別》

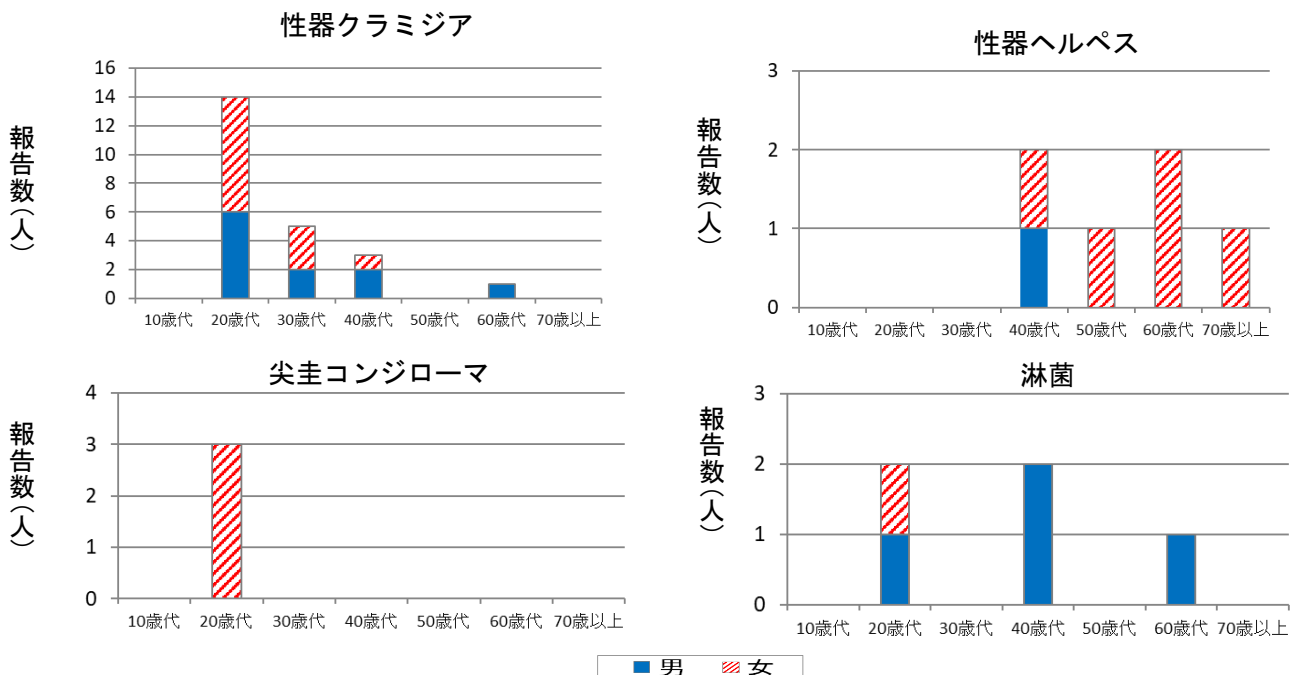
○性器クラミジア感染症：報告数23人(1.8)で、前月の約2.1倍、昨年4月の約1.1倍であった。

20歳代が全体の約6割を占めた。(男性11人・女性12人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数6人(0.46)で、前月の1.2倍、昨年4月の約0.5倍であった
(男性1人・女性5人)

○尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、前月及び昨年4月の1.5倍であった。
(女性3人)

○淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約0.8倍、昨年4月の約0.7倍であった。
(男性4人・女性1人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,548人(4.7)で、前月比101%とほぼ横ばいだった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,443人(2.5)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症857人(0.88)で前月比107%、尖圭コンジローマ563人(0.58)で前月比114%、淋菌感染症685人(0.70)で前月比93%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は19人(2.7)で、前月比83%と減少した。また、昨年4月(2.3)の約1.2倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人(2.7)で、前月の約0.8倍、昨年4月の約1.2倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,361人(2.9)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,265人(2.7)で前月比94%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症93人(0.19)で前月比146%、薬剤耐性緑膿菌感染症3人(0.01)で前月比100%であった。

疾病名		第18週	第19週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	18	11	3	1	1	4		2			
	定点当り	0.31	0.19	0.19	0.10	0.14	0.80	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	93	115	19	25	27	6	2	8	4	16	8
	定点当り	1.60	1.98	1.19	2.50	3.86	1.20	0.50	1.33	2.00	2.67	4.00
RSウイルス感染症	報告数	38	42	16	7	5	6				8	
	定点当り	1.06	1.17	1.60	1.17	1.25	2.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	21	37	15	1	2	5	4	1	2	7	
	定点当り	0.58	1.03	1.50	0.17	0.50	1.67	1.33	0.25	2.00	1.75	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	139	173	54	32	17	18	16	14	6	14	2
	定点当り	3.86	4.81	5.40	5.33	4.25	6.00	5.33	3.50	6.00	3.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	97	143	52	30	9	6	1	13	3	25	4
	定点当り	2.69	3.97	5.20	5.00	2.25	2.00	0.33	3.25	3.00	6.25	4.00
水痘	報告数	6	10	6	2	1		1				
	定点当り	0.17	0.28	0.60	0.33	0.25	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	58	65	23	21	1	9	2	1		7	1
	定点当り	1.61	1.81	2.30	3.50	0.25	3.00	0.67	0.25	0.00	1.75	1.00
伝染性紅斑	報告数	1	1						1			
	定点当り	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	21	23	10	5	3		3	1	1		
	定点当り	0.58	0.64	1.00	0.83	0.75	0.00	1.00	0.25	1.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4	12	6		2		1			3	
	定点当り	0.11	0.33	0.60	0.00	0.50	0.00	0.33	0.00	0.00	0.75	0.00
流行性耳下腺炎	報告数		3		1	2						
	定点当り	0.00	0.08	0.00	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	1	1	1								
	定点当り	0.17	0.17	0.33	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2024年 第1週～19週 保健所受理分)

2類感染症	結核	31例(2)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	17例(3)		
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例(1)
	つつが虫病	14例	日本紅斑熱	4例
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6例	後天性免疫不全症候群	2例
	侵襲性肺炎球菌感染症	5例(2)	水痘(入院例)	3例
	播種性クリプトコックス症	1例	百日咳	32例(2)
			重症熱性血小板減少症候群	3例
			レジオネラ症	5例
			クロイツフェルト・ヤコブ病	2例
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例
			梅毒	60例(3)

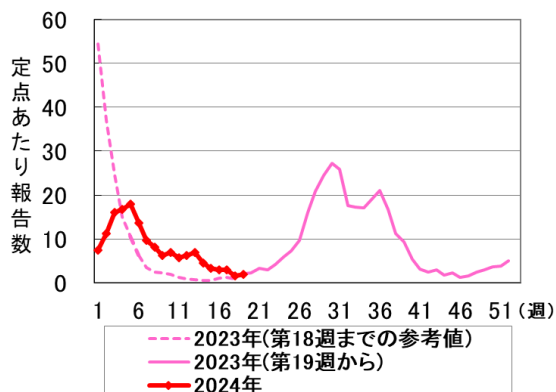
()内は今週届出分、再掲

新型コロナウイルス感染症情報《県内第19週、全国第18週（再掲）》

□ 県内第19週 新型コロナウイルス感染症発生動向

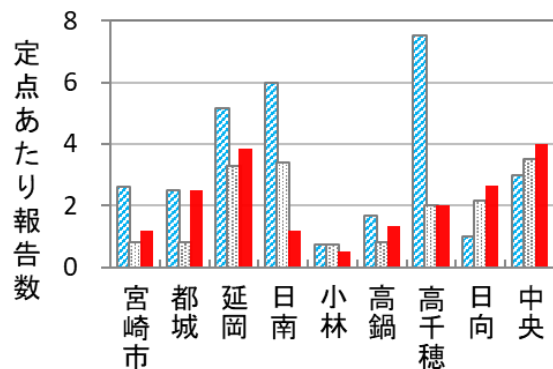
5月6日～5月12日までの1週間で115人(2.0)の報告があった。前週比124%と増加し、中央(4.0)、延岡(3.9)、日向(2.7)保健所管内からの報告が多かった。

新型コロナウイルス感染症 発生状況



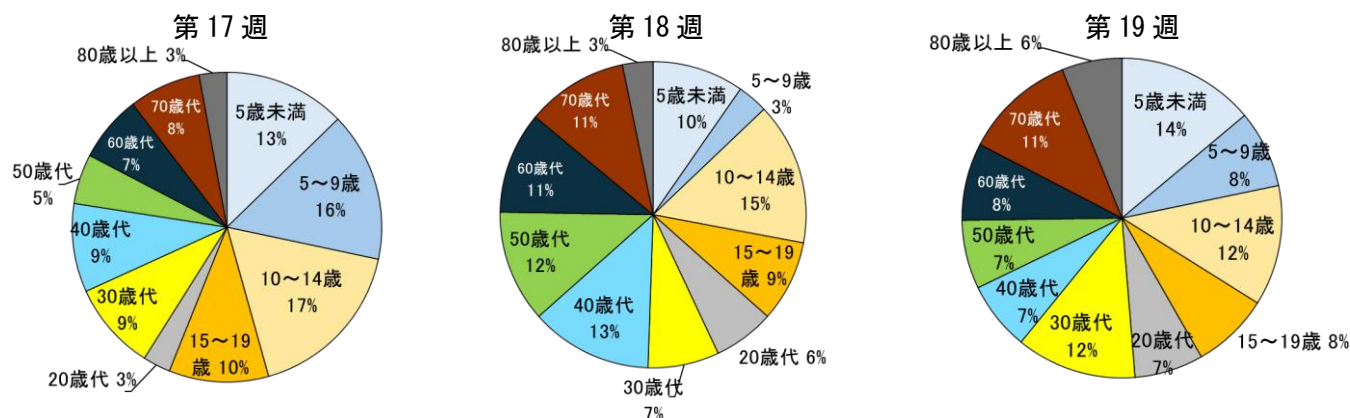
※新型コロナウイルス感染症の2023年第1週～第18週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)

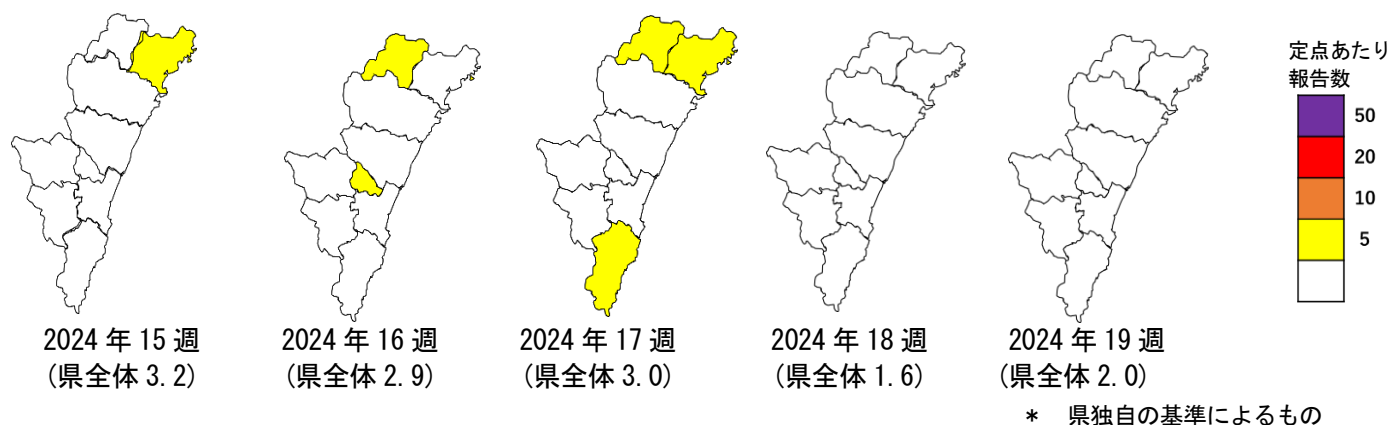


■ 17週(先々週) ■ 18週(先週) ■ 19週(今週)

新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ



保健所別新型コロナウイルス感染症流行マップ 2024年第15週～2024年第19週



□ 全国第18週 新型コロナウイルス感染症発生動向

4月29日～5月5日までの1週間で11,086人(2.3)の報告があった。前週比70%と減少し、沖縄県(9.8)、青森県(5.7)、秋田県(4.9)からの報告が多かった。年齢群別では15歳未満が全体の約2割を占めた。